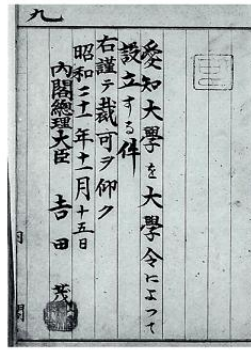
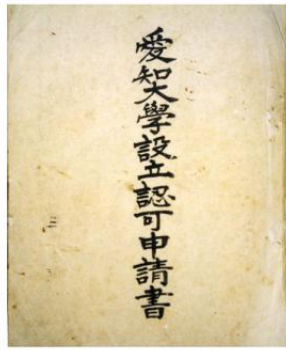


# 愛知大学記念館

愛知大学記念館は1908年に竣工し、105年の歴史をもつ近代西洋風建築物です。1925年まで旧陸軍第15師団司令部として、1946年愛知大学設立後は大学本館、1998年には文化庁有形文化財に登録され、同年愛知大学記念館となりました。館内は旧学長室（師団長室）ほか各展示室をご覧ください。

開館時間：10：00～16：00  
休館日：日・月曜日、祝日

館内では、愛知大学設立許可書をはじめ、最高裁判所初代事務総長も務めた本学2代・4代学長の本間喜一に関する展示、日本初の本格的な中国語辞典「中日大辞典」の編纂土台となった原稿カード（1972年日中国交回復以前の1954年に日本へ返還）など、愛知大学の歴史資料を展示している。



そのほか、本学のルーツ東亜同文書院大学や、書院で教員を務めた孫文の協力者、山田良政・純三郎兄弟に関する資料も展示している。第34・38・39代内閣総理大臣近衛文麿、中華民国大總統黎元洪（れいげんこう）、中日友好協会会長廖承志（りょうしょうし）の直筆書や、1930年代に中国政府が書院学生に対して発給したパスポート、本間喜一の指示で敗戦後上海から引揚時に持帰られた学籍簿・成績簿など、東亜同文書院大学に関する資料の展示とともに、孫文や孫文夫人宋慶齡（そうけいれい）の直筆サイン入り写真、孫文と山田純三郎が連絡用に利用した暗号表、犬養毅首相が5・15事件（1932年）で暗殺される3年前に山田純三郎に贈った書なども公開中。



山田純三郎と孫文



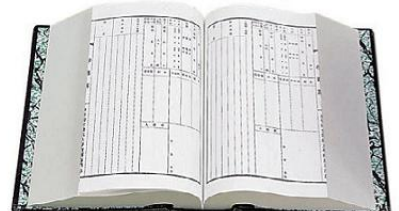
「丹心照萬古」近衛文麿書



「一道同風」  
中華民国第3代・第6代大總統 黎元洪 書



「怨無怨」犬養毅 書



東亜同文書院大学の学籍簿・成績簿



## 愛知大学東亜同文書院大学記念センター

愛知大学東亜同文書院大学記念センターは平成5年に設立して以来、本学の「生みの親」ともいえる東亜同文書院大学に関する研究を進めており、その成果は記念報やブックレットにて発表し、ゆかりの地にて講演会・資料展示会を毎年開催している。

センターの設置場所は、愛知大学豊橋校舎内にある旧陸軍第15師団司令部庁舎(現在の大学記念館)にあり、館内には東亜同文書院大学と愛知大学に関する歴史を紹介する展示室のほか、孫文や東亜同文書院出身で孫文の協力者であった山田良政・純三郎の資料が収蔵されている。

あわせて、文化財である旧陸軍第15師団関連施設の保存と活用に取り組んでいる。現存する旧陸軍第15師団関連施設のうち、司令部庁舎は平成10年に文化庁より国の登録文化財として、旧師団長官舎(現在の愛知大学公館)は平成14年に豊橋市より有形登録文化財に指定されている。



### 1. 旧陸軍第15師団司令部庁舎(現:大学記念館)の保存

平成10年に文化庁より国の登録文化財に指定された旧陸軍第15師団司令部庁舎は、明治41年に建てられ、今年で105年の歴史を有する。これまで10年以上同施設にて史資料の保存と資料公開を実施してきたが、施設の保存と活用について、文部科学省より採択を受けた各研究事業の一環として、改修工事を行ってきた。

#### (1) 私立大学学術研究高度化推進事業(オープン・リサーチ・センター)(平成18年～22年)

本事業は、東亜同文書院大学記念センターの情報公開と東亜同文書院大学をめぐる総合的研究の推進プロジェクトであり、情報公開にあたって外壁の破損部分の張替および塗替え工事を行い、建物内の各部屋の改修工事を実施するとともに、展示室の設備の充実を図ることで、より発展的な活用を推し進めた。



#### (2) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(平成24年～)

本事業は、大学の経営戦略や研究戦略に基づき、各大学が特色を活かした研究を実施するため、その研究基盤の形成を支援する「研究拠点を形成する研究」プロジェクトであり、大学記念館が新たな研究拠点になることにより、これを博物館相当研究施設に近づけるため、別施設での耐火設備の収蔵史資料室の増設とあわせて、上記(1)にて未改修の部分であった西側と北側の外壁の全面的な改修工事を実施した。また、室内改修工事も行い、2階の旧学長室(旧司令長室)ほか、4部屋を特別企画展等が催せるよう整備した。



◆この取り組みは、平成 25 年 3 月 28 日付の中日新聞にて取り上げられた。

## 貴重な歴史資料保管へ収蔵庫新設



貴重な資料の劣化を防ぐために新設された収蔵庫＝豊橋市町畑町の愛知大で

# 「博物館」目標研究に力

愛知大の前身である東亜同文書院を研究する愛大東亜同文書院大  
学記念センター（豊橋市町畑町）が、隣接する建物の会議室を改築  
し、貴重な歴史資料を保管する収蔵庫を新設した。研究が文部科学  
省の二〇一二年度支援事業として採択され、博物館相当の施設を旨  
指して取り組みを進める。

（曾布川剛）

### 愛大東亜同文書院大学記念センター

東亜同文書院は一九〇一  
（明治三十四）年、日中関  
係を構築する人材育成を目  
的に中国・上海に設立。四  
五年の敗戦で廃止された  
が、翌年に教員や学生の受  
け皿として愛大が設立され  
た。

記念センターは同書院関  
係資料のほか、一九一一年  
の辛亥革命を指導した孫文  
や、孫文を支援した山田良  
政・純二郎兄弟に関する資  
料を多数保管している。

## 「近代日中関係」など5テーマ

現在の収蔵庫は資料の盗  
難や消失、劣化の恐れがあ  
るため、新たな収蔵庫を造  
った。広さは四十平方メートル、  
湿度を一定に保つパネルや  
耐火性能に優れた扉と壁を  
採用し、良い環境で資料を  
保存できるようにした。

二〇一二年度から五年間  
で、文科省の私立大学戦略  
的研究基盤形成支援事業と  
して採択され、一九〇八年  
建設の記念センターの外壁  
も修繕して展示室を増設。  
近代日中関係に書院が果た  
した役割や書院学生が中国  
大陸や東南アジアを見聞し  
た調査旅行など、今後は五  
つのテーマで研究を進めシ  
ンポジウムなどで公表して  
いく。

研究を進める藤田佳久名  
誉教授は「センターには写  
真や暗号表など価値の高い  
資料がたくさん眠ってい  
る。博物館のような形で表  
に出せるように研究を続け  
たい」と意欲を見せる。



## 2. 大学記念館の活用

### ◇常設展

来館者は、国内外、年齢層を問わず幅広く訪問されている。資料等に関する問い合わせは、来訪時や電話にて年中対応している。以下来館者への対応風景を紹介する。



豊橋市立栄小学校(平成 21 年 10 月)



豊橋市立南部中学校(平成 22 年 6 月)



インドネシア・ムラワルマン大学(平成 23 年 5 月)



NHKの取材(平成 23 年 6 月)



『明るい社会づくり推進豊橋地区協議会』(平成 24 年 5 月)



中国無錫市の中学生修学旅行(平成 24 年 7 月)



外務省招聘中国歴史研究者訪日団(平成 24 年 12 月)



陸軍幼年学校卒業生(平成 25 年 1 月)

### 3. 連携事業による地域振興

#### ■愛知県／「現代美術展 in とよはし」(平成24年1月17日～2月19日)

あいちトリエンナーレ地域展開事業「現代美術展inとよはし」(主催:あいちトリエンナーレ地域展開事業実行委員会)が豊橋市内各地にて開催され、大学記念館において山本昌男氏、渡辺英司氏の作品が展示された。

大学記念館にアート作品を展示するという取り組みは初であり、カテゴリーやジャンルを超えて、旧陸軍第15師団司令部だった空間と現代美術の世界をコラボレーションすることができた。また、来訪者から「大学記念館もあわせて見学できたことに感動した」との声もいただいた。

The image shows two promotional materials for the exhibition. On the left is a red poster with the title '現代美術展 in とよはし CONTEMPORARY ART IN TOYOHASHI'. It lists artists: 渡辺英司, 山本昌男, 味岡伸太郎, 村田弘志, 増田洋美, 浅田奏子, 杉山健司, 石川理, タン・ルイ, 杉森順子, 澤田菜三. It also features the dates '2012 1.17(水) → 2.19(日)' and a photograph of the University Memorial Hall. On the right is a 'マップ/スケジュール' (Map/Schedule) page. It includes a '会場ガイドマップ' (Venue Guide Map) showing the location of the exhibition at the University Memorial Hall and other nearby venues. Below the map is a '開催スケジュール' (Event Schedule) table with columns for dates and event details.

大学記念館（旧陸軍第15師団司令部庁舎）にて展示された2人の作家による作品

**山本昌男 YAMAMOTO Masao**

アーティストとしての経歴

東京大学美術学部 / 2002.1.17(水)～1.20(土) 開催(2日間) 19名参加(1名欠席)

2007 東京国立近代美術館

2008 千代田区立美術館(2008年11月) 開催(1週間) 10名参加(1名欠席)

2009 千代田区立美術館(2009年11月) 開催(1週間) 10名参加(1名欠席)

2011 千代田区立美術館(2011年11月) 開催(1週間) 10名参加(1名欠席)

「山本昌男」は、東京国立近代美術館で開催された「山本昌男」展のカタログに掲載されています。このカタログは、山本昌男の作品とその制作過程について詳しく紹介しています。また、山本昌男の作品は、千代田区立美術館で開催された「山本昌男」展でも展示されています。

**渡辺英司 AWASHIRO Eiji**

アーティストとしての経歴

東京国立近代美術館 / 2012.1.17(水)～2.19(日) 開催(2週間) 19名参加(1名欠席)

東京国立近代美術館 / 2012.1.17(水)～1.20(土) 開催(3日間) 19名参加(1名欠席)

2007 東京国立近代美術館

2008 千代田区立美術館(2008年11月) 開催(1週間) 10名参加(1名欠席)

2009 千代田区立美術館(2009年11月) 開催(1週間) 10名参加(1名欠席)

2011 千代田区立美術館(2011年11月) 開催(1週間) 10名参加(1名欠席)

1 千代田区立美術館(2012年11月) 開催(1週間) 10名参加(1名欠席)

2 千代田区立美術館(2012年11月) 開催(1週間) 10名参加(1名欠席)

3 千代田区立美術館(2012年11月) 開催(1週間) 10名参加(1名欠席)

4 千代田区立美術館(2012年11月) 開催(1週間) 10名参加(1名欠席)

5 千代田区立美術館(2012年11月) 開催(1週間) 10名参加(1名欠席)